

熱川温泉病院

シルワル・スレス(技能実習生・ケアワーカー)

功 績 日本語が不慣れな外国人の患者さんの通訳として通院に付き添い安心して受診して頂いたことで、健育会職員が目指すべき「愛情をもって親身な対応」を実践した功績。

推 薦 者 渡部 美穂(病棟師長)

推 薦 理 由 被推薦者は日本語の理解力が高いだけでなく、物腰が柔らかく患者さんのお気持ちは先取りして行動に移せる「日本人よりも日本人らしい」対応ができる職員です。実習生ながらとても頼りがいがあり、病棟ではなくてはならない存在であります。今回の通訳の件も、その後も進んで継続的にフォローするあたり、彼らしい患者さんに寄り添った行動です。是非理事長賞に推薦申し上げたいと思います。

内 容

当院では4か国、7名の外国人技能実習生を受け入れており、入院患者さんの日常生活のケア業務に従事しています。その中の1人ネパールからの実習生シルワル・スレスさんは来日12年目。日本語学校や大学で学んだ後、2021年12月に当院に入職しました。初めての介護職でしたが、語学が堪能(ネパール語・英語・日本語のトリリングル)で、器用で物覚えが良く業務の大半を早い段階で習得しました。また、周りへの気配りが上手で夜勤明けでも日勤スタッフが手薄な時には下着交換を手伝い、汚れが気になった流し台や洗面台を綺麗に磨き上げます。患者さんへの対応も会話のペースを合わせ、分かり易い言葉で簡潔に伝える心遣いに先輩の日本人スタッフも感心するほどです。

先日3ヶ月前に来日したばかりの地元のホテルに勤務するAさん(南アジア出身の男性)が泌尿器科を受診しました。数日前より下腹部の痛みが続いており、問診を行いました。日本語が不慣れな方で、英語で医師や看護師とコミュニケーションを試みるも上手く伝わらず、スタッフも困った表情のAさんを前になす術がありませんでした。そこで言語が達者なシルワルさんが通訳を務めることになりました。問診でネパール語と日本語を交えやり取りした結果、スムーズに診断と薬の処方を行うことができました。診察が無事終わりホッとしたAさんからとても感謝されたそうです。

外国人ながら健育会の職員に求められる「愛情を持って、親身な対応」を実践できるシルワルさんは、その後のAさんの通院時も、自ら連絡先を交換して付き添って通訳を行っています。異国で病気を患い苦労している患者さんを気遣い「誰でも困っている人を助けるのは当たり前」と言い切る彼は医療職に就く全職員の模範とするべき存在です。今後も優秀な職員である彼の当院での活躍を期待したいと思います。